

# 北のまほろば国体開幕

# 2330人集う



開幕した「北のまほろば冬季国体」。澄み切った青空の下、堂々と行進する各県選手団

第五十五回国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー競技会「北のまほろば冬季国体」が、八戸市、三沢市、福地村の三市村を会場に二十九日、開幕した。

大会には、四十七都道府県から約二千三百三十人の選手、役員が参加。午前十時から皇太子さまをお迎えして八戸市長根公園野球場で開会式が行われ、北海道を先頭に北から南の順に選手団が入場行進した。本県選手団は、百二十一人のうち、午後の試合に備えたアイスホッケー成年などを除く約七十人が最後に登場。胸を張り堂々と

行進し、スタンドを埋めた観客から大きな拍手を浴びた。

開会式では皇太子さまが「日ごろの練習の成果を十分に発揮されるときにも、お互いの友情をはぐくみ、地元県民の皆さんとの交流を深められるよう期待しています」とお言葉を述べられ、最後にスピード成年男子B五百メートルと千メートルに出場する本県の戸田金作選手が「郷土代表の誇りを持ち、正々堂々、競技します」と選手宣誓した。

「北のまほろば冬季国体」には、スケート・アイスホッケー大会としては、初めて四十七都道府県が顔をそろえ、二月二日まで、全国の氷の精鋭が熱戦を繰り広げる。